

山陰自然史研究

Natural History Research of San'in

No. 11, March 2015

【特集】 山陰海岸ジオパークエリアの動物相とその保全

論文

- 轟 裕明・鶴崎展巨 汽水化以前（2003年）の鳥取市湖山池とその周辺のトンボ相 …………… 1-14
- 尹 振国・岩本真菜・鶴崎展巨 塩分導入による湖山池のトンボ群集の崩壊…………… 15-32
- 鶴崎展巨・川上大地・太田嵩士・藤崎謙人・坂本千紘 鳥取砂丘における
ハンミョウ類の分布・生活史と1種の絶滅 …………… 33-44
- 江澤あゆみ・鶴崎展巨 鳥取県における海浜性ウスバカゲロウ類の分布…………… 45-53
- 中山 桂・板井竜二郎・井上健人・柏木俊秀・鶴崎展巨 山陰海岸ジオパークエリア
内における海浜性ウスバカゲロウ類の分布(予報)：京都府・兵庫県 …………… 55-64

【特集】山陰海岸ジオパークエリアの動物相とその保全

山陰海岸ジオパークは京都府京丹後市の丹後半島先端から鳥取県東部（鳥取市）までの海岸線とその周辺地域に設置されているジオパークである。2010年10月に世界ジオパークとして初めて認定を受けたが、2013年12月の日本ジオパーク再認定時には鳥取市西端の浜村青谷エリアがさらに追加された。鳥取県内のジオパークエリアには扇ノ山山頂から河合谷高原、雨滝、浦富海岸、鳥取砂丘、久松山一帯、湖山池、岩坪、安蔵森林公園、鷲峰山、浜村海岸などが含まれている。

山陰海岸ジオパークエリア内の鳥取砂丘と浦富海岸の動物相について、本誌で特集を組んだのは3年前だが（2012年3月発行の第7号）、その後、当地域では生物多様性保全の面で、重大問題が次々と発生している。その第一が2012年に始まった湖山池の高塩分化である。この事業では鳥取県の地元の動植物の専門家への意見聴取は一切されておらず、鳥取県と鳥取市は湖山池の動植物について正しい情報と理解を欠いていた。鳥取県レッドデータブック絶滅危惧I類で鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例（2001年12月制定）の指定種であったカラスガイ（当時は湖山池が県内唯一の既知産地）が生息することは理解していたようで、2011年から2012年にかけて私と貝類に詳しい谷岡浩氏は本種の保全について県の水・大気環境課から相談を受けたが、私たちがそのような高塩分（海水の1/10から1/4）では本種は絶滅するので水質改善には他の方策をとるべきと強く進言したのを無視して、鳥取県は2012年3月12日に事業をスタートさせた。谷岡氏や私には事前には知らされず、二人とも湖山川水門の開放を新聞報道で知ったのである。カラスガイが絶滅したという報告を私が県から受けたのはその年の8月だった。高塩分化で湖山池の生物相は2012年中に劇的に変化した。レッドリスト掲載種で当地に生息記録のある動物は20種あったが（県はこの事実すら知らなかった）、そのほとんどは絶滅した。本号で報告するように湖山池から発生できるトンボはゼロになり、湖岸が外来種のヨーロッパフジツボで覆われたのもこの年である。塩分が流入したので、湖山池には塩分躍層が発達し、湖底の貧酸素化がおこり、水質は事業開始以前よりも悪くなっており、これは3年が経過した現在でも変わっていない。

生物多様性保全上の別の懸念は鳥取砂丘でおきている。私たちが当地の動物相の調査を本格的に開始したのは2007年頃からだが、2012年前後から鳥取砂丘西側の砂防林が過度に伐採され、西側の林縁に無数にあったクロコウスバカゲロウの巣穴が激的に減少した。また、鳥取県レッドリストで絶滅危惧I類であったハラビロハンミョウが絶滅していることがほぼ確実となった。環境省の特別保護地区内で動植物が絶滅したという話を私は聞いたことがなく、これはおそらく国内で初めての事例である。

2008年に制定された生物多様性基本法以降、あらゆる国土管理において生態系保全の観点が求められる。世界ジオパークに認定されている山陰海岸ジオパークエリアはなおさらであろう。本号の論文が当地域の生物多様性保全とジオパーク内における観光や教育に活用されることを期待したい。

鶴崎展巨（2015年3月）

本号は平成26年度鳥取県山陰海岸ジオパーク調査研究支援補助金を受けて鶴崎がおこなった「鳥取県内の山陰海岸ジオパークエリアにおける陸生節足動物の地理的分化・分布・生物地理と観察スポットの掘り起こし」と題する調査研究の報告の一部として、同補助金の支援により印刷したものです。鳥取県生活環境部緑ゆたかな自然課からのご援助に深謝いたします。